

ギニアは西アフリカに位置する共和制国家であり、北にセネガル、北西にギニアビサウ、北東にマリ、南にシエラレオネ、リベリア、南東にコートジボワールと国境を接し、首都はギニア西部で大西洋に面しているコナクリである。肥沃(ひよこ)な土壌と豊富な鉱物資源を有するが、インフラ整備の遅れなどから経済開発は遅れ、政情不安が経済成長の停滞にも影響している。

2016年以降、ギニアにおける経済の主体が鉱業にシフトし、国家歳入の20〜25%、輸出収入の80%を占める重要セクターとなっている。一方で輸送インフラ整備は開発権を得た民間業者に委ねられている部分も多く、国全体としては整備が立ち遅れている。

ギニア国内の高い経済ポテンシャルを活性化し経済成長を促すために、同国政府は幹線国道の整備を計画することとなる。国道1号線、および首都コナク

海外建設協会

プロジェクト便り

◆ギニア

国道3号線スンバ橋架け替え計画

大日本土木

現地スタッフの指導徹底

リから北に向かう国道3号線を、鉱業の安定的な成長を支える点で重要視する。国道3号線上に位置する本案件のスンバ橋の整備計画は、ギニアの経済発展を支える重要な事業の一つとして19年11月から23年5月にかけて実施された。

大日本土木が施工を担当した

現地スタッフは、ギニア国民に対する雇用創出、技術の移転を目的の一つとし、直用体制で工事を実施することとし、日本人およびフィリピン人が作業を監督するが、実際の作業はギニア人。特に現場周辺の地元住民を積極的に雇用する方針とし、繁忙期には150人の現地スタッフが従事した。



供用が開始されたスンバ橋架け替え計画

ギニアはフランス語圏のため、英語からフランス語への通訳を配置したほか、一部の作業員に対しては現地語であるスー語での指示が必要だった。指示の伝達の途中でお互いの理解に齟齬(そご)のないよう、コミュニケーションには通常より多くの時間を要した。一方、現場周辺での雇用機会の増加は地域住民からも好意的に受け取られ、工事期間を通じ周辺の住民とは終始良好な関係を維持できた。

橋梁形式はプレストレストコンクリート(PC)3径間連結ポストテンション

資機材持ち込み技術移転



PC桁の架設状況

込み、日本人技術者の指導の下、現場に設置した製作ヤードですべての作業を現地で行った。根気強く現地作業員への指導を続けた結果、高い品質で製作を完了している。

19年11月に契約を終えたものの、20年4月からCOVID-19の拡大に伴う10カ月わたる工事中断、21年9月には軍事クーデターが勃発するなど、さまざまな予期せぬ事態が発生したが、23年5月に無事に発注者の最終検査を終えることができた。

コン方式スラブ桁橋が採用されているが、現場製作のポストテンション方式のスラブ桁は国内でも数例の実績があるものの極めてまれな工法。桁を製作する際、ギニア国外で分割して輸送し現場内で連結するセグメント方式も検討したが、輸送費が高額になることに加え、ギニア国内の道路交通事情が劣悪なこともあり、採用を見送った。

最終的に桁の製作は外型枠、中空型枠、緊張資機材をはじめとする主要資材のほか、門型クレーンや架設桁も日本から持ち込み、日本人技術者の指導の下、現場に設置した製作ヤードですべての作業を現地で行った。根気強く現地作業員への指導を続けた結果、高い品質で製作を完了している。

19年11月に契約を終えたものの、20年4月からCOVID-19の拡大に伴う10カ月わたる工事中断、21年9月には軍事クーデターが勃発するなど、さまざまな予期せぬ事態が発生したが、23年5月に無事に発注者の最終検査を終えることができた。

ギニアでは日本ブランドに対する絶大な信頼が今なお残っている。これまでの政府開発援助(ODA)を通じてきた実績と信頼を汚さぬとともに、現地スタッフへの技術移転にも重きを置いて工事に取り組んできた。全く土木工事の経験のなかった現地スタッフたちが、完成した橋を誇らしげに家族に見せる姿を見て、ODAに従事している喜びを改めて実感した。

今後のギニアの発展に、彼ら現地スタッフが少しでも貢献してくれることを切に願う。

(海外支店土木部(現場所長) 水島泰一郎)